

「勉強会」

| | |
|--------------------------------------|---|
| 勉強会の内容 と趣旨 | <p>勉強会では、ただ講義を聞くのではなく、「グループワーク」を入れながら、参加しているメンバーの理解度、感想なども対話を通して共有を図りながら進めます。</p> <p>同じ内容を聞いていても、人によって「捉え方」や「理解度」が違います。「わかったこと」や「わからないこと」もきちんとみんなで共有することで、何が課題なのか、何かできるのかを考えていきます。</p> |
| 勉強会テーマ 「他の団体を知ろう」 | <p>「子どもの居場所を地域住民がつくることでどのような効果があるのか」 講師：気まぐれ八百屋だんだん 店主 近藤博子 氏</p> <p>これまでの話し合いで、他の団体の活動を知りたいという声があり、六郷地域に足りない機能として「子ども食堂」があったことから、今回のテーマになりました。これまでの話し合いでも、「地域だからこそできること」を考えていたことから、近藤さんからは、地域住民だからこそできたこと、そしてどんな効果があったのかということをお話していただきました。</p> |
| グループワーク 「講義を聞いての感想」 | <p>感想の抜粋</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 近藤さんの柔軟な発想と行動力がすごい！ ● 近藤さんの思いが伝わりました。「子どもを中心に」の気持ちがあれば大人達もやっていると嬉しいです。 ● どういう流れがあって今の形があるのか知れたのが良かったです。 ● “自分たちのスタンスを崩さない”、“できる範囲で”ということが大切だと感じました。 ● 子どもたちを中心に、様々な人たちを巻き込みながら、連携をとりながら、活動することの大事さ、おもしろさを感じました。そしてその輪が徐々に広がっていくのだと感じました。 ● 子ども食堂のイメージ、役割について少し理解できたように思う。現場を一度見てみたい。 ● “食”をはさむことによるふれあいの意義は深いのかなと思いました。 ● どのように収支が出ているのか、継続できているのか興味があった。 |

グループワーク

「六郷でどんな子ども食堂(居場所)が必要か」

- いろいろな世代の人が集まれる場所
- 提供するだけでなく、地域にあったニーズを調査して子どもの居場所づくりが必要
- 家庭が一番の居場所であってほしいと思う。
- 子どもでも大人でも、障がいがあってもなくても、みんなが楽しく居られる、ごちゃまぜな居場所、何か困ったことがあれば、はき出せる、そういう場だと良いなと思いました。
- 高齢者も活躍できる食堂があったらいいなと思いました。
- 特別なことなく、なんとなく立ち寄れる場
- 各世代に必要な情報提供
- 地域住民の出入りしやすい開かれた居場所づくり
- なかなか自分の居場所が見つけれない子ども、何か自己肯定を持ちづらい環境にいる子どもの居場所があればと思いました。
- できることから、六郷ならではの資源を出し合えると良いと思います。
- 世代、国籍、障がいの有無等に捉われず、地域が一体となって、各々の人にとって、必要とされる場所を作り出していく。
- 最初から子ども食堂と決めないで、気楽に楽しく遊びにこれるような居場所を作ってみてはと思いました。
- 学校、町会、青少対、NPO、包括などが連携した多様性に対応できる子ども食堂

勉強会の様子



講義後のグループワークの様子



次回 11月6日（火）は
「話し合いの場」です。

18時30分から20時30分まで
会場は、六郷地域力推進センター4階会議室です。

前回、地域で出来ることのアイデア出し
をしましたので、その話の続きをします。

お待ちしております。